

デンソー山岳部 2013年 冬山合宿報告書

山城 中央アルプス 空木岳～檜尾岳

日程 平成25年12月27日～12月30日（予備日1日）

メンバー 吉田 明和（CL・食料・渉外） 小田 修三（SL・記録・気象）
亀山 誠（装備・会計）

空木岳頂上直下

第1日 : 12/27（金）曇り

【行動記録】 歩行=9H15M

起床（4：00）—道の駅発（5：00）—ロータリ（6：45）—林道終点（8：10）—1本（9：45）—1本、わかん
装着（10：45）—大地獄—小地獄（14：00）—迷い尾根（16：00）

26日の移動時からパラパラと曇りが降っており、山ではかなりの雪が降っていることが予想された。道の駅「花の里いいじま」に車を止め、テントを張って、明日からの行程をメンバー間で再度確認。今回の冬合宿期間中は前情報でかなりの冷え込みと風が予想されたため、27日のうちになるだけ距離を稼ごうということになった。朝4:00に起床すると、駐車場には薄っすらと雪が積もっている模様。朝食を詰め込み、登山口方面へと移動した。今回A隊は縦走予定のため、途中で車をおき、B隊の車に便乗して登山口へと移動した。登山口へ続く道路は途中で通行止めになっており、ゲート少し手前のロータリ風の場所に車を駐車しA、B合同で冬合宿をスタートした。雪は予想通り、かなり降った様でスタート地点の時点で10cm程度は積もっていた。上に登ったときの苦戦が目につかぶ。スタートはB隊を先頭に登山開始。この日、我々より先に入った登山者はいないようで古いトレースの上に新雪がしっかりと積もっている中、歩

みを進める。B隊がしっかりとトレースを作ってくれたので、その間A隊は体力を温存することができた。池山小屋あたりから雪が膝ぐらいまでの深さになり、わかんを装着。トップはB隊の町田部長と藤田さんだったがこの程度の積雪は気にならないとばかりに、ガンガン登っていった。我々若輩者も負けちゃおれんなと気合を入れ直した。マセナギまで着くとB隊はテント場の確保に入るが、A隊は距離を稼ぐために先に進んだ。マセナギから暫く、B隊の町田部長と藤田さんの二人がテン場に荷物を置いて、A隊のためにトレースをつけてくれた。5人で雪が結構深いのと荷物が重いこともあり大変助かった。12:00に町田さん、藤田さんと別れそこからはA隊のみで進むことになる。相変わらずトレースはほぼ見えず新雪のためなかなか歩くピッチが上がらない。地獄の入り口あたりでわかんからアイゼンに変更。大地獄、小地獄を越えていく。新雪のため、ところどころで足場をしっかりと固めないと雪ごと滑り落ちてしまいかねないような急斜面が随所にある。小地獄で一旦尾根筋をはずれトラバースしながら進んでいくが、かなり雪が降っていたのと、斜面が切れ落ちているため、雪が崩れたらとまりそうにない。ここでザイルを出し、フィックスロープで進んでいく。少し傾斜が緩くなった所からコンテで進むがやはり雪が多くなかなか速度は上がらない。当初の予定では、分岐のあたりまで進みたかったが、迷い尾根に到達した時点で16:00であったため、これ以上進むのは難しいと判断し、迷い尾根のちょっとしたスペースにエスペースを張る事にした。(小田 記)

第2日 : 12/28(土) 曇り

【行動記録】 歩行=7H08M

起床(4:30) — 迷い尾根発(6:45) — 散歩道入り口1本(8:15) — 1本(10:15) — 2528m地点(11:00) — 分岐(13:00) — 空木平避難小屋(13:53)

事前の予報では28日は空木頂上付近で気温-20度、20mの風が吹くとあったため、風が強いことは覚悟していた。起床前のテントの中でも時折、風の音が大きくなり睡眠の妨げになった。樹林帯を抜けると如何ほどの風になるのだろうか心配しながら再び眠りに入った。4:30に起床し、朝食を済ませ外に出ると、樹林帯の中であるからか冷え込みと風はそれほど強く感じなかった。天気は薄曇りである。夏道は迷い尾根からも暫く南斜面をトラバースしながら尾根上に出るのだが、我々は迷い尾根から尾根を登って稜線を進むルートを選択した。スタート時はアイゼンを装着。ここでも斜面が急なのと新雪のためかなり慎重に歩いた。今回の合宿では、急斜面での新雪のいやらしさを嫌というほど味わった。踏み固められた足場と異なり非常に歩きにくく、進むピッチを上げられない。散歩道入り口のちょっとした広場に出るのに1時間半ほど要し、夏道に合流した。このあたりから段々と風が強くなっていくのを感じた。暫くは緩やかな尾根が続く。偵察に来たときはなんてことはない登りだったのだが新雪がついていると緩やかなのぼりも中々大変である。薄っすらと古いトレースがあったのでアイゼンのまま歩行したが、このあたりは一度、わかんに履き替えたほうがよかったように思う。偵察の時は直ぐに分岐に辿り着いたのだが、今回は中々分岐に辿り着くことができない。やはりほとんどトレースがないのと、時折雪が深くなるためである。やっとのことで分岐付近まで来たが、既に時間は11:00である。そのまま空木岳に向かっても着くのは12:00を超えてしまう為、縦走はあきらめて、空木平避難小屋に向かうことにした。しかし分岐点を探すも標識がない。地図を見ながらそれらしきポイントまで来てても標識らしきものが一向に見あたらない。分岐から水平トラバースして空木平避難小屋に向かう夏道ルートを選択したかったので、しばらく分岐点を探したが結局見つからなかった。そこで夏道を探すことをあきらめ、駒石手前まで尾根上を登り、そこから避難小屋までダイレクトに下ることにした。視界はそんなによくなかったのでコンパスで方向を決め、尾根から避難小屋へと下っていった。このルートはあまり傾斜もきつくない(雪はかなり深かったが)、結果としては良い判断であった。夏道で行くと深雪のためかなりの時間をとられていただろう。夏道ルートを探すのに1時間以上の時間をロスしてしまった。あまり夏道に拘るのも良くないと反省した。常に他のルートがないか検討することが重要である。避難小屋の扉は最初、凍り付いて開けなかったが、アイゼンで扉の前の氷を取ることで開けることができた。避難小屋の中に入り、テント張り、暖をとることができた。

(小田 記)

第3日 : 12/29(日) 晴れのち曇り

【行動記録】 歩行=7H42M

起床(4:30) — 空木平避難小屋(6:45) — 駒峰ヒュッテ(8:22) — 空木岳山頂(8:40) — 駒峰ヒュッテ(9:00) — 一本(10:29) — 小地獄・大地獄 — 一本(11:35) — 林道終点(13:35) — こまくさの湯 駐車場(14:27)



空木岳頂上



空木岳頂上から檜尾を望む

4:30に起き、朝食及び出発の準備。避難小屋の中に幕営したため、風や寒さの影響を受けることなくテント撤収とパッキングができ、小屋の有難みを感じた。小屋の外に出てみると快晴・微風であり絶好のアタック日和であった。わかんで小屋から北へ昨日と通った道を登り返し、尾根に辿り着く。そこから尾根伝いに登り駒石に到着した。地面の雪が固くなってきたのでここでアイゼンに履き替えた。駒石からは、体のバランスを崩すくらいの強風にあおられながらも一步一步ゆっくりと登って行った。8:22に駒峰ヒュッ

テに到着した。ここで荷物を降ろし空身で空木岳山頂を目指す。相変わらずの強風と寒さで足先がちぎれそうな感覚になりながらも8:40山頂に到着した。雲一つない快晴で空気が澄んでいるためか、360°遠くまでくっきりと見渡すことができた。八ヶ岳連峰、南アルプス、塩見岳後ろから顔を出している富士山、御嶽山 etc の山々を目に焼き付けた。山頂まで寒さやラッセルの苦労があったため感動はいつもの2倍であった。山頂で10分程度過ごし下山を開始した。駒峰ヒュッテ、駒石と通過するにつれ、だんだん寒さと風が緩んできた。分岐を通過し樹林帯に入ると、単独行と4人組のパーティとすれ違った。10:29に一本休憩、この頃になると天気は崩れ始め、山頂付近は雲かかっていた。もしかすると、山頂で快晴を迎えられたのは我々だけだったかもしれない。休憩を終え、再び下山開始。小地獄、大地獄を通過、トレースがついているため順調に進む。マセナギを通過ししばらく進むと、所々にショートカットの道ができていた。おそらくB隊が作った道であろう。そこを利用させてもらい時間短縮、ショートカットの道は急斜面のため足を滑らせながら下った。亀山さんはボブスレーのように体を寝かせながら猛スピードで下りていった。やがてスキー場が見えその横を通過し、車が停めてあるこまくさの湯に14:27に到着。そこで入浴と食事を済ませ帰途に着いた。(吉田 記)

<リーダー所見>

初日と2日目のラッセルにより予定の倍時間がかかったこと、木曾殿～檜尾の稜線上の風速20m/s、-20℃の厳しい環境を考慮すると縦走は断念すべきと判断、空木岳の往復となった。

しかしながら、雪山の岩稜歩きとロープワークを経験でき、中堅レベルにふさわしい山行となり冬山合宿

の目的を達成することができた。今回の冬山合宿と前回の春山合宿を通じて、重い荷物を背負った状態での岩稜歩きに慣れ、体力も身につけてきたように思う。今後は、一人一人がトラバース斜面でのルートが確保できる技術等、技術面での向上が必要と感じた。

<食糧所見>

メニュー

1日目 夕 中華丼、味噌汁、海藻サラダ

2日目 朝 餅、うどん / 夕 レトルトカレー、ご飯、味噌汁、海藻サラダ

3日目 朝 餅、そうめん

夕食のごはんの量は普段よりも多く、朝も餅を用意したことで、ラッセルに耐えうるスタミナをつけることができた。

<装備所見>

今回軽量化のためコッヘルの大は置いていき、中、小、極小の3セットで臨んだ。小さいセットだと新雪だったので雪を溶かしたりするのに若干苦労したが、レトルトのメニューであれば対応可能であった。今後も厳しい条件等では軽量化を徹底したい。

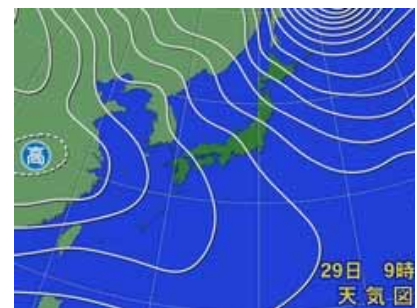
<気象所見>

12/27 曇時々雪：低気圧通過後で天気は曇り。風は弱い。冬型が強まる。

12/28 曇り：冬型が強まり、風が強く、気温も低い。

12/29 晴後曇：引き続き午前中は風が強く、気温が低い。空木岳アタック時にはかなり強い強風にあおられた。

大矢さんの気象サポートが今回も大変役立ちました。ありがとうございました。



■感想

【小田】

気温、風、積雪状況どれも厳しい条件が並んだが、その中で空木まで登頂ができ、非常に充実した山行となった。厳しい条件下で学んだ点、反省した点を今後の山行に活かしていきたい。同行のメンバーに感謝。

【亀山】

合宿、お疲れさまでした。若手二人は厳しい気象条件の中てきぱきと行動がとれており、頼もしく思えた。今回も実践しながら多くを感じ、学び、スキルアップに繋がったのではと思う。一方、課題も見えたと思いますので、今後の活動に取り入れ、目標に向け更なる精進を期待いたします。合宿を共にでき幸甚なり！メンバーと支援者の方々に感謝いたします。

<会計報告>

【費用】 一人あたり 6,800円

・食材・嗜好品	6,500円	: レトルト、無洗米、うどん、ラーメン スープ、コーヒー・紅茶類、おつまみ他
・避難小屋	3,000円	: 空木平避難小屋 1000円/人×3人×1泊
・高速道路	5,000円	: 往復 2500×2
・ガソリン代	5,000円	
・車消費費	1,900円	
・その他	-1,000円	: 飲み会残金
以上合計	20,400円	

【差し入れ】 不破さん: 牛しぐれ煮 ありがとうございました